

## 「私のために生きてくださる神」

主任牧師：重田 稔仁

### <メッセージ>

人はみな、ある種の先入観、暗黙の了解事項と言ったいわゆるマインドセットを持って生きています。私たちは、みなこのマインドセットに従って物事を見て、解釈し、判断して行動しています。この人間のマインドセットは、一度設定されるとそれを書き換えたり、新しく設定するのが困難なことがわかっています。マインドセットを置き換えることを一般的に「パラダイムシフト」と呼んでいると思いますが、実は、信仰の世界におけるパラダイムシフトが今、私のうちで静かに起きています。それは、コロナ感染の社会的危機がもたらした生活様式の変化によって始まりました。今朝は、そんな私のうちで起きている信仰のパラダイムシフトによってもたらされた新しい聖書の理解を創世記22章のアブラハムのイサク生贖の物語からメッセージしたいと思います。

聖書 創世記 22:1~19 (P4 参照)

### 物語のあらまし

主がアブラハムにイサクを捧げよと命じたことについての疑問。

1:それは、真実な主なる神の自己矛盾な要求ではなかったのか。

創世記 17:15~16

主はアブラハムに、海の砂ほど多い子孫が与えられると約束しました。しかしその独り子イサクを焼き尽くす捧げものにせよと命じました。これは主の真実、正義の否定とみなされてもおかしくありません。

2:それは主なる神が忌み嫌う異教の神々に捧げる人身犠牲と同じ要求ではないか。モレク崇拜 バアル崇拜の慣習

3:アブラハムに主の命令に従うことを拒絶する自由は無かったのか

主はアブラハムの自由意思を剥奪する横暴な支配者のようだ。

アブラハムが主の命令に従い愛する独り子、イサクを捧げようとした物語を私たちは、ど

のように受けとめたら良いか。

## 物語のポイント

1:主は(アブラハムが神を畏れるものか  
どうかを知るために)アブラハムにイサクを捧げよと命じた  
創世記 22:1 22:12

2:アブラハムは、主の命に従ってイサクを全焼の生贄として捧げた  
何故なら、アブラハムは、主が生贄を備えてくださると知っていた。  
創 22:8  
主は死人を蘇らせることができると信じていた  
ヘブル 11:17~22

3:主はアブラハムがイサクを殺すのを止めさせ、代わりに生贄を備えた  
創 22:12

主がアブラハムに求めたのは、息子イサクの命ではなくアブラハムの自発的な主への献身  
だった

<主のアブラハムへの試みによって明らかにされたこと>  
新しい洞察

1:アブラハム信仰の偉大さが証しされたのではなく、主の真実が証しされた。

アブラハムの熱烈な信奉者であった哲学者セーレン・キェルケゴールは、その著書『おそれとおののき』でアブラハムを信仰の英雄として讃えている。

2:アブラハムとその子孫は主に属するもの、主の契約の民である事が明らかにされた。  
創世記 22:17~18 17:15~16

<アブラハムの神、主がアブラハムの子イサクの神となった>  
アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神:出エジプト 3:15

アブラハムとその子孫は、主のために生きるもの。

3:主はアブラハムのために生きる神だということが明らかにされた  
新しい洞察

アブラハムが主のために生きる前に、主がアブラハムのために生きてくださっていることを証しているのが、創世記 22 章のアブラハム物語のメッセージの核心。  
私のパラダイムシフトによって生まれた解釈。

#### 結論

私たちが信じている主は、私たちのために生きてくださる神です。だから、私たちは自分のためではなく、主のために生きるのです！

その目的は、何でしょうか。

それは、私たちが真の意味で私たちの家族、友人、隣人のために生きるものとなるためです。人は主のために生きるとき、初めて他者のために生き始める。

では、何故、主は、私たちが主のために生き、私たちの家族、友人、隣人のために生きることを願っておられるのか。

それは、私たちを通して主が私たちの周囲の人々を祝福するため！

アブラハムの子孫を通じて万民が主の祝福に預かるように。イエス・キリストに献身する私たちを通じて主は、私たちの隣人を祝福するのです！

私たちは、この使命に生きるために主に召されています。

私のために、生きてくださる主なる神のために生きてみませんか。

<創世記 22章 1~19節 新共同訳>

-アブラハム、イサクをささげる-

これらのことの後で、神はアブラハムを試された。

神が「アブラハムよ」と呼びかけ、彼が、「はい」と答えると、神は命じられた。

「あなたの息子、あなたの愛する一独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに上り、彼を焼き尽くす捧げ物としてささげなさい。」

次の朝早く、アブラハムはろばに鞍を置き、捧げものに用いる薪を割り、二人の若者と息子イサクを連れ、神の命じられたところに向かって行った。

三日目になって、アブラハムが目を凝らすと、遠くにその場所が見えたので、アブラハムは若者に言った。

「お前たちは、ろばと一緒にここで待っていなさい。わたしと息子はあそこへ行って、礼拝をして、また戻ってくる。」

アブラハムは、焼き尽くす捧げものに用いる薪をとって、息子イサクに背負わせ、自分は火と刃物を手に持った。二人は一緒に歩いて行った。

イサクは父アブラハムに、「わたしのお父さん」と呼びかけた。

彼が、「ここにいる。わたしの子よ」と答えると、イサクは言った。

「火と薪はここにありますが、焼き尽くす捧げ物にする子羊はどこにいますか。」アブラハムは答えた。

「わたしの子よ、焼き尽くす捧げ物の子羊はきっと神が備えてくださる。」

二人は一緒に歩いて行った。神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。

そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠とうとした。そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。

彼が、「はい」と答えると、御使いは言った。

「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神をア畏れる者であることが、いま、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった。」

アブラハムは目を凝らして見回した。すると、後ろの木の茂みに一匹の雄羊が角をとられていた。アブラハムは行ってその雄羊を捕まえ、息子の代わりに焼き尽くす捧げ物としてささげた。

アブラハムはその場所をヤーウェ・イルエ（主に備えてくださる）と名付けた。

そこで、人々は今日でも「主の山に、備えあり(イエラエ)」と言っている。

主の御使いは、再び天からアブラハムに呼びかけた。御使いは言った。

「わたしは自らにかけて誓う、と主は言われる。あなたがたこの事を行い、自分の独り子である息子すら惜しまなかったのです、あなたを豊かに祝福し、「あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やそう。あなたの子孫は敵の城門を勝

ち取る。地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

アブラハムは若者のいるところへ戻り、共にベエル・シェバへ向かった。アブラハムはベエル・シェバに住んだ。